

地域につながる、「生きる」に寄り添う「広場」のような、場所でありたい。

# ポランの広場

Vol.  
43

2018年2月1日発行

TAKE FREE

独立行政法人  
国立病院機構 花巻病院 [広報誌]



神が宿り舞う  
早池峰神楽をみる

# ポランの広場

43 2018年2月1日 発行

## ❖ 病院理念

当院で一番大切な人は患者さんです。  
寄り添い、想像しながら、ともに前に。

## ❖ 運営方針

1. 公的病院としての役割を担い、精神医療並びに重症心身障害児(者)医療の向上に努めます。
2. 地域に開かれた病院を目指します。
3. 臨床研究と教育・研修・情報発信に努めます。
4. 個々の職員がその専門性を発揮し、質の高いチーム医療を目指します。
5. ムリ・ムダ・ムラのない病院経営を目指します。

今回の表紙



### 早池峰神楽

早池峰神楽は、大償(おおつぐない)と岳(たけ)の2つの山伏神楽の総称。500年以上の伝統をもつ非常に古い神楽で、岳神楽は荒々しく勇壮で男舞がよく、大償神楽は優雅な女舞がよいといわれている。国指定重要無形民俗文化財、ユネスコ無形文化遺産。花巻市大迫町では、1月と12月を除く第2日曜日、神楽公演を開催している。

写真：八木深



**新** 年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお祈りいたします。

岩手県には世界に誇る早池峰神楽があります。早池峰神楽は山伏神楽で、深山幽谷に入り、修行をしている山伏が、神霊、仏霊を慰めるために、密教の加持祈祷の印を切りながら、神楽を舞ったものです。早池峰神楽には、岳神楽と大償神楽があります。

岳神楽は男舞とよばれ、拍子が勇ましい。山の神舞は、ゆっくりした所作から、ふっと腰を落としひらりと舞い、そして忘我の乱舞になります。静から動への変化がこの舞の本質であり、ここに神が宿ります。足踏みの所作が極めて重要で、地を踏み固め、悪霊を抑え、パバンという腹の底に響く足踏みは岳の勇壮な舞に欠かせない拍子です。面は、真っ赤で、人とはとても思えない、鬼のような異形です。山の神は、秋から冬に山を守り、春になると里に降りて五穀を生む。山の神の舞は、異形のもの、既成の物をかち割り、新たに五穀を作り出す。異質の力を発揮しています。

大償神楽は女舞です。権現の舞では神が仮の姿として獅子頭に宿り舞うという神がかりの

## 早池峰神楽をみる。

八木 深 花巻病院病院長

## 神が宿り舞う

舞です。数年前、大償神楽で別格の権現の舞を見たことがあります。所作をなぞるのでなく、体に一体化して、優美な流れで、夢幻の境地に誘われました。それまで別の舞手が舞った演目の所作を全て含み、それがまるで別物なのです。押しつけがましくないのですが、こう踊ることができると伝承しているようでした。その名人はその後まもなく引退しました。

遠野早池峰神社に数年前、冬に行ってみると、雪を抱いた拝殿の屋根が朽ち落ち、しかし荘厳な雰囲気、神宿る場所という霊気が立ち込めていました。隣に廃校になった小学校があり、管理人さんと話をしてみると、遠野早池峰神社の神楽は、拝殿に板を渡し、神殿に背を向け踊り、大迫とは別種で、決して足の裏を見せない。狭い板の上で、面をつけて踊ることだけでも並外れた技量を要するが、神殿に背を向けるのは、決して大迫ではやらないことで、神に奉納する



舞なのではなく、神が舞う舞なのだ。名人がいて、天女の舞が、今でも焼き付いていると。その名人はすでになく、大迫と違って、資金も入らず記録映像も残っていない。拍子を身につけるにはこの地に生まれる必要があり、名人の芸を目に焼き付けたものが伝承するのだが、この地区はもう人がいないのだと。神社自体も、何代か前に、ご神木をブローカーに売り渡し、何本も木が切られたあとが、参道脇にあり、それで人心が離れ、朽ち果てたのだが、この廃校になった小学校に通っていた女の子が、朽ち果てて行く神社を悲しく思い、一念発起して、神官の資格を取って、今神主をしている。ゆっくりとかみしめるように話をされ管理人さん自身が、神楽の踊り手なのだ、しかも名人ではないかなと所作から思った次第です。つながるは大事です。

表紙の写真は、大償神楽の機織の舞です。美しい機織の女に、村人が、夫はもう帰ってこないと言を流し、女は霊となって機織歌を歌い、真相を知った夫が菩提を弔うというものです。写真の場面は、いないものの狂乱の踊りです。いないもの、うしなったものの悲しさが伝わってきます。



権現舞



写真1:中央みのり幼稚園児によるYOSAKOIソーランの披露。写真2:ソロンガー中野氏のオリジナル弾き語り。写真3:各種グッズコーナーも大盛況でした。



借りて改めて御礼申し上げます。ご協力いただいた関係各所の皆様、本当にありがとうございました。職員も含めて参加者全員が満足感を得られるような文化祭を目指して、ぜひ来年も取り組んでいただきたいと思います。

山川 志野: 作業療法士

**ポ** ップコーンとフライドポテトの悪夢。文化祭の朝、7時に志願してくれた出店係のメンバーが集まりました。100人前のポップコーンを作るためです。

和気あいあいとしていた現場も、次第に無口になり、豆を焦がさぬよう、それでいて残らず破裂させようと集中しています。傍らではキャラメル作り。やけどするほど熱いキャラメルを作りポップコーンと混ぜていきます。気づけば3時間、販売開始の時間となっても作業は終わりません。なぜこんなことに…

思えば文化祭の計画を立てている時は楽しい時間でした。何を売ろうか、アイデアを出し、リスクや経費を計算し、厳選されたメニュー、だったはず…。ポップコーンが完成し、一安心したところで次の悪夢、フライドポテトです。冷めたポテトは出さないとリーダーの一声から、係はポテトを焼く作業にてんてこまい。休みなく働いてもお客さんをだいたい待たせるこ

アタシ、こーゆうの全っ然抵抗ないの♡



## 病院行事 病院文化祭を開催して



石 哲也: 庶務係長

**花** 巻病院の文化祭は毎年秋に開催されており、「花巻病院でつながる地域の輪」というテーマのもと、普段通院している患者さんのみならず、一般地域住民の方々にも開けた行事として病院全体で取り組んでいます。

暗い印象を抱かれがちな精神科病院のイメージが一気に変わるような、バラエティ溢れる催しや子供向けの出店などが近年での特に大きな見所です。私は事務局として各グループのサポート・調整を担当しましたが、各グループの動きを見ていく中で、年間でも最大規模の院内行事であるこの文化祭が多くの職員によって作り上げられているのだと改めて感じる事が出来ました。また、他の職員についても、普段の業務とはまた違う形で準備を進めていく事で横の繋がりを再確認出来る良い機会になっているように見えました。

文化祭がこれほど盛り上がる行事として運営できているのは、催し・出店・展示における関係各所のお力添えが非常に大きなところであり、この場を



とに。一方のそば・うどん・カレーコーナーはベテランの係のおかげでとてもスムーズな販売、さすがです。無我夢中の1日、終わってみればほぼ完売でした。皆さんに大きな負担をさせてしまい申し訳ありません。この悪夢を来年に活かしますので、懲りずにまたよろしくお願いします。

野又 淳: みずき病棟 副看護師長

**副** 看護師長会では例年通り『アロマハンドマッサージ』のブースを担当しました。ブースには53名の地域の皆様が訪れ、ハンドマッサージを体験されていました。

体験された方からは「とても気持ちよかった」「来年もまた来たい」「覚えて帰って家族にもしてあげたい」などの感想をいただき、今年も盛況のうちに終わることができました。

ハンドマッサージは4名の男性副看護師も担当し、アロマの癒される香りとともにリラックスした会話の中で、花巻病院の特徴を自然にアピールできていたように思います。

菊池 恭介: 作業療法士

**病** 院文化祭を開催するにあたり、毎年最も賑わいを見せるステージ発表。今年は地域



の幼稚園児・保育園児2団体を病院にお招きし、可愛らしいお遊戯を披露してもらいました。ギャラリーの親御さん方もビデオカメラを片手に拍手喝采、じいじ、ばあばの集客も相まって大変な盛り上がりでした。

また、チアダンスの披露では、岩手県内を中心に幅広く活動している『リップスダンサーズ&キッズ』が出演。昨年に引き続きチームワークを活かしたキレッキレなダンスの披露と、ギャラリーの方々との積極的な交流もあり、非常に会場全体を沸かせていました。

ステージ演舞の後半は、毎年恒例の音楽祭となり、市立花巻中学校吹奏楽部による明るくも壮大なブラスバンド演奏を皮切りに、男性ソロンガー『中野 寛人』氏による弾き語りの披露、フィナーレは『Parent&Child?』によるジャジーで大人な雰囲気バンド演奏で締め、会場にいた誰もが魅了されました。

病院というある種閉鎖的な環境の中であって、ふとこの文化祭の時だけは、地域の方々が多く病院に足を運んでいただき、満足し喜んで帰られる光景を目にすると、地域の支えあってこそこの病院であると共に、地域に拓かれた姿勢の大切さを実感した1日でした。

写真4:花巻中学校吹奏楽部による壮大な演奏。写真5:花巻病院お家芸の看護師によるアロマハンドマッサージコーナー。写真6:当院作業療法スタッフ手作り作品も多数展示。写真7:岩手県内で幅広く活動されているParent&Child?のバンド演奏。写真8:リップスダンサーズ&キッズによるチアダンス。写真9:地域の方々も多数来場し、スタッフも終始笑顔(´▽´)





八木深院長による解説

## topics 01

### 岩手司法精神医学セミナー を終えて

工藤 直人：みずき病棟（医療観察法病棟）看護師長

9 月23日、岩手県民情報交流センター「アイナ」にて岩手司法精神医学セミナーが開催されました。このセミナーは、北海道東北では2施設しかない医療観察法病棟を有する当院が、平成25年から定期的に開催しているもので、今年で5年目になります。司法精神医学及び医療の発展を目指すことを目的としており、今回は東京工業大学名誉教授の影山任佐先生による「酩酊犯罪等について」、当院八木深院長による「フランスの司法精神医学について」の講演がありました。貴重な講演で



影山任佐先生による講演の様子

あり、司法精神医学に興味のある医師、司法精神医学に携わる医療関係者、福祉関係者、並びに行政関係者等、参加された方の司法精神医学への理解につなげることができました。当院は2019年全国規模で開催される司法精神医学会の開催担当施設となっており、これまで培ってきた県内司法医学セミナーでの実績が活かされるよう、司法精神医学会の準備を進めていきたいと考えています。



講演後は活発な意見交換が行われました。



## topics 02

### 国立病院総合医学会 に参加して

雲石 哲也：庶務係長

11 月10、11日に香川県高松市にて開催された国立病院総合医学会に参加し、当院において昨年度から取り組んできた「臨床評価指標を用いたPDCAサイクルに基づく医療の質の改善事業」について発表を行いました。この取組について簡潔に述べると、診療データから見つかった課題を改善することによって医療の質を高めようというのですが、司法精神部長の中嶋先生を中心とした当院での取組が評価され、昨年医事部門として関わった私が発表をする運びとなりました。

具体的に取り組んだ内容というのは外来患者さんへの多剤投与を減らすという取組で、医師・薬剤科部門との調整は勿論のこと、何より患者さんへの配慮が必要なものであり、成果を出せたことは当院においては多方面での自信に繋がったと思います。

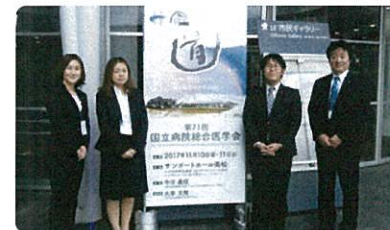
今回初めて学会に参加しましたが、自分の発表だけではなく、様々な講演や他施設の発表を聴講出来たことも大きな経験でした。事務部門の若手職員による発表も多く、病院の運営・経営に努力している仲間が全国にいることを心強く感じました。

学会で学んだことや感じたことを今後の業務に役立てていけるよう、励んでいきたいと思っています。

赤平 陽子：地域支援室 看護師

訪 問看護をする中で、患者さんが症状や生活上の困難に対処出来ず病状が悪化することが多いと感じました。訪問看護で看護師が訪れる時間は、患者さんの生活のほんの一部であり、多くの時間は患者さん自身で自己対処していかなければなりません。そこでグリーンカードやWRAP、クライシスプランと一緒に作成したところ患者さんの病状や特性により使用できるツールが異なるのではないかと考え、それぞれのツールの検証を行い発表しました。

初めての学会発表で緊張しましたが、他の施設での効果的な取り組みが多数発表されており、あらた



めて地域における看護について考える有意義な機会となりました。

精神疾患を持ちながら地域で生活する患者さんが心身ともに健康で元気に過ごせるよう支援し、患者さん本人の「どこでどのように暮らしたいか」という気持ちや本人が思い描く「夢や希望」に寄り添い、その実現に向けてこれからも一緒に前に進んでいきたいと思っています。

梅澤 みどり：わかば病棟 看護師

今 年度のわかば病棟看護研究は「自閉症患者の破衣行為に対する行動療法の検証」という演題でした。その検証結果を国立病院総合医学会にてポスター発表しました。わかば病棟は自ら訴える事が困難な患者さん59名が入院しており、看護者の観察力やアセスメント力がとても重要となります。今回、破衣行為が頻回で他患者と共同生活が困難な自閉症患者に対して行動療法を実施し、破衣行為という問題行動が減少し、他患者と共同生活ができるという生活の質の向上を目指して取り組みました。スキミングを基本とした余暇活動による行動拡大と患者に調和させる環境調整を取り入れることで、現在はその患者もプレールームで他患者と過ごす事が出来ています。今回の研究は、患者の訴えに耳を傾ける一対一での遊びや援助をスタッフ全員が統一して行うことにより、患者との信頼関係を構築させ、言葉にはならない情報を表情や動作でくみ取り、患者に寄り添った援助をできたことが成功に繋がったと考えます。

topics  
03平成29年  
褥瘡対策研修を行って

佐藤 榮子：褥瘡対策部会 かなん病棟 看護師長

11 月2日、褥瘡対策研修を行いました。講師に、皮膚・排泄ケア認定看護師として、仙台医療センターで活躍されている大向由克子先生をお迎えし、今年度は、「スキン・テアの予防と対応」というテーマで講義をしていただきました。参加者は看護師の他、作業療法士、栄養士、薬剤師、看護学生など22名が参加しました。

スキン・テアとは、主として高齢者の四肢に発生する外傷性創傷であり、摩擦単独あるいは摩擦・ずれによって表皮が真皮から分離（部分層創傷）、または表皮および真皮が下層構造から分離（全層創傷）して生じると定義されています。当院でも超高齢化社会に伴い、高齢患者さんの看護が増加しています。高齢者の皮膚は、さまざまな理由から脆弱化し、些細なずれや摩擦によってスキン・テアを起こしやすい状態にあります。講義では、予防の方法や悪化を防ぐための創傷管理などについても解りやすくお話していただきました。スライドや実際の事例を交えた講義内容で、大変理解が深まったとの感想が参加者



仙台医療センターの大向由克子先生の講義は、スライドや実際の事例を交えた内容で大変理解が深まりました。

からも聞かれました。

今後もチームが一つとなり、今回学んだことを活かして、日頃のスキンケアに留意し、褥瘡に対する意識を高め、院内発生を予防していきたいと思えます。



スキンケアのポイント（清潔・保護・保湿）についても詳しく講義していただきました。

topics  
04わかば病棟  
「誕生会&クリスマス会」

赤間 義輝：保育士

12 月12日、誕生会と年1度の大イベントであるクリスマス会が開催されました。今年のクリスマス会は、未明から降り始めた急な大雪に見舞われ、残念ながら2家族が来られませんでした。28家族（36名）の方々に参加していただきました。

クリスマス会は始めに、保育士や患者さん達がお芋の絵が描いてある帽子を被り「おいものたいそう」という準備体操からスタートしました。



2番目は、理学療法士、作業療法士によるハンドベル演奏（クリスマスメドレー）をしていただき、会場内に居る方全員がハンドベルの音色にうっとりしていました。

3番目は、看護師&介助員による今年再ブームとなった「荻野目洋子さんのダンシングヒーロー」のバブリーなダンスプレゼント。アップテンポの曲に思わず見る側も体が勝手にリズムに乗り踊ってしまうなど会場内の温度は一段と上がりました。

4番目は、花巻清風支援学校の先生方（4名）による、スライドショーとパフォーマンス。今年修学旅行に行った2名の生徒さんと一緒に参加したご家族

の様子をスライドショーとパフォーマンスで披露してくださいました。温泉での入浴シーンや豪華な食事、家族とのふれあい場面など普段病棟では見られない一面をたくさん見る事が出来ました。

5番目は、患者さん達による劇「わかば日本昔話」。ストーリーとしては、桃から生まれた金太郎が筋力中に森の中の様々な動物と相撲を取り、勝ち続けるものの最後に一寸法師に負けてしまい、更に修業を続け立派なわかば病棟の看護師さんになった」と言うお話です。劇中の金太郎役には、病棟で1番力持ちの男性看護師さんに演じてもらい、患者さんや親



御さんに動物の役として出演して頂きました。

そして最後は金太郎がサンタクロースになって患者さんと一緒に記念写真を撮ったり、触れ合いながら今年のクリスマス会に幕を閉じました。

今年は中央施設管理室の皆様にも音響を担当して頂き、去年よりも迫力のある音を提供して頂きました。また写真撮影の方は事務部の方に応援を頂きました。ご家族の皆様には、足元の大変寒い中お越しいただき感謝申し上げます。来年は、今年よりも更にパワーアップのしたクリスマス会を企画したいと思います。



12月19日に開催された看護師新採用研修会では、4月から続いた研修会の締めくくりとして、1年間の振り返りと次年度の課題を新採用者の皆さんに発表していただきました。

川村 美樹：わかば病棟 看護師

4 月に入職し、わかば病棟に配属になりました。一般病棟の経験はありますが、重心病棟は初めてで不安がありました。それでも、1年を通し新採用者研修を受けることで様々な事を学ぶことができ、そして、同期との絆も深めることができました。また、病棟でもプリセプターの方や周りのスタッフの方々から助言やフォローをして頂き、働きやすい環境を作って頂き感謝しています。2年目は、もっと患者さんに寄り添える看護を出来るように学びを深めていきたいです。



伊藤 和也：さくら病棟 看護師

日 々、患者さんから学ぶことは多くあります。患者さんは、入院当初表情が固く不安な言動が多く、不安定な精神状態で

クリスマス衣装での集合写真。  
今後の看護師活動に向け、ハイ！ピース♪

## 患者さんに寄り添える看護を目指して

した。そこで、患者さんに「何か困っていることはありませんか」と配慮しながら、寄り添う気持ちで傾聴を続けました。すると表情や言動に変化が見られ、退院頃には「皆さんが親切だから帰りたくないです」と笑顔で話されました。この言葉を聞いて、安心できる看護の大切さを再認識しました。これからも、患者さんが安心できる精神科看護を目指したいと思います。



八重樫奈美子：かなん病棟 看護師

私 は慢性期の精神科病棟で勤務しています。今まで精神科で働いたことがなく、精神科看護に不安がありました。しかし、精神科の専門治療について、プリセプターを始め先輩方に細かく教えて頂きました。また、患者さんとの関わり方での不安や悩み事は、いつでも相談ができたので乗り越えることができました。今は精神科看護という新しい事へのやりがいを感じながら日々働いています。これからも学びを深め、積極的に挑戦して日々邁進していきたいと思っています。



## 掲示板

### 院内イベント 「早稲田大学寄席演芸研究会」 お笑い講演

栗石 哲也：庶務係長

8月28日に早稲田大学の寄席演芸研究会によるお笑い講演が病院内体育館にて開催されました。研究会の皆さんは夏休み期間を利用して精神科病院での講演をボランティアで行っているとのこと今回来ていただきました。

内容は、漫才・コント・大喜利の三本立てとなっており、軽快なボケ・切れのあるツッコミが繰り広げられる笑いにあふれた講演でした。

大喜利のコーナーでは、患者さんからのお題提供のみならず、回答まで披露する場面が見られ、会場が一体となって大に楽しい時間を過ごされていました。

早稲田大学寄席演芸研究会の皆さん、ありがとうございました。



会場一体となって楽しんだ大喜利コーナー

### 研修会開催報告 「BLS（一次救命処置）とAED」 研修を開催して

中村 みゆき：医療安全管理係長

毎年度、医療安全研修計画では5月に新採用者を対象に、10月は職種を問わず職員対象に一次救命処置の研修が実施されます。10月20日、職員16名対象に花巻消防本署、救急救命士の方に一次救命処置、AED、バックバルブマスクの使用、窒息時の早期介入対処方法をご指導して頂きました。

はじめにDVDによる聴講があり、一般人の方が路上や運動中に倒れ心肺停止された方を蘇生、AEDを活用し延命したなどの体験を伝える内容が紹介され、手技を習得する必要性を深める機会となりました。演習では2分間連続の心肺蘇生法（胸骨圧迫）に息があがる職員の姿もありましたが、あっという間の充実した90分でした。

患者の急変や窒息は突然やってきます。事前に患者の様態をアセスメントし不測の事態が生じたとしても、日頃から必要物品の置き場所や動作確認、手技の振り返りを意識して行い、余裕をもって対応できるようにしておきたいものです。今後も継続して企画していきたいと思っています。



※バックバルブ、マスクの使用法





## 精神科専門療法のご案内

### 01 精神科デイケアについて

当院では、精神疾患の受療中で、比較的通院・服薬ができて  
いる方や、主治医がデイケア利用の必要性を認めている方を対象に  
精神科デイケアを開設しています。開所日は平日の9時30分から15時30分まで  
の1日利用制となっており、専属の心理療法士、看護師を配置しています。

デイケアでは、社会参加コースとして、主として集団活動を通じて集中力を向上  
させ、他人との適切な距離の取り方や疾病との付き合い方を学ぶ各種プログラム  
を実施しています。また、就労支援コースとして「仕事ミーティング」を実施して  
おり、近隣の作業所やハローワークに赴き、復職への準備を行うなどのリワークプロ  
グラムも実施しています。



### 02 精神科作業療法について

当院では、作業療法士を複数名配置しており、精神疾患等を  
有する方の日常生活或いは諸活動をサポートすることで回復させ  
る治療を行っています。「作業療法 (OT)」は多岐にわたります。日常生活に特化  
したものから、対人コミュニケーション、社会復帰、対象者に合わせて種々のプ  
ログラムを実践します。主なプログラム内容として、手工芸、ゲーム、歌 (カラオ  
ケ)、スポーツ、病棟OTでは調理・外出訓練を実施しています。生活技能訓練  
(sst) を使ったコミュニケーション訓練も実施しています。



### 03 精神科訪問看護について

当院では、専門スタッフ (看護師・精神保健福祉士) が精神  
疾患をお持ちの方や、心のケアが必要とされている方々を対象に、  
直接ご自宅や入所施設にお伺いし、生活上の相談をお受けしたり、助言・援助  
などのトータルサポートを包括的に実施しています。病気の不安や、生活の不安、  
人間関係の不安や、ひいては就労の不安など、精神疾患をお持ちの方の苦悩に  
対して専門スタッフがきめ細かなケアやサービスを通して包括的に支援します。



#### 外来診療について

- 外来受診は、予約制となります。
- 新患予約受付については、地域支援室 (内線691) までご連絡願います。
- [受付期間] 平日 (土・日・祝日・12/29~1/3を除く) 9:00~17:00
- 予約後の日時変更については、平日15:00~16:00にご連絡願います。

#### 編集後記

新たな年を迎えましたが、気候の厳しさに体調を崩しやすい時期です。巷 (ちまた) では、かぜ予防としてみかん、きのこ類の摂取 (免疫力をあげる)、お茶でのどを潤す (カテキンでウイルス感染を防ぐ) などの情報があります。個人の嗜好や生活習慣に見合った予防法をチョイスし、指先まで暖かく労り、この時期を乗り越えて頂きたいと願っております。 【広報委員・N】

